

事業実績（2023年度）

事例1 入院患者の出棟時転倒防止を 目的とした患者情報共有の仕組み

起案側：臨床検査・輸血部(中央診療施設)
関連側：看護部、医療の質・安全管理部、医療情報部、医療支援課

改善前

・検査に来室した患者が、検査前後で転倒する事例が散発している。医療の室・安全管理部からのコメントでは電子カルテを確認すると転倒リスクのある患者であることが多いが、検査部門でその都度電子カルテを確認することは困難であり、また搬送者（看護補助者や受持ち以外の看護師）も同様に把握しにくく、より伝達が困難になっている現状がある。

改善後

・入院患者情報を共有する仕組み（入院患者カードへの印などのツール）を導入することにより、転倒転落リスクなどが軽減され、入院患者への適切な配慮がなされる。



結果

・3月1日（金）より運用を開始した。
（今回、運用開始後、日が浅い為、結果についての報告は困難である。今後、8月頃を目途に転棟件数集計と運用の利用者アンケートを実施予定した。）



費用

なし

事例2 救急患者受け入れ判断に係る 病床運営について

起案側：救集科 関連側：看護部、医師、医事課

改善前

・病床稼働率90%以上時に、救急搬送に関して各科での受け入れ判断を行う状況で、救急要請受け入れ判断までに時間を要し、長時間救急隊を待たせる事案が続いている。その原因として、翌日の入院状況や自科以外の病棟の空床状況を詳細に認知でき得ない各科当番医に受け入れ判断を委ね、その都度病床担当看護、当直師長に確認する作業を挟まなければならない



改善後

・空床状況を明確に提示（緊急入院が可能な、空床病床数、その内男性、女性病床数）することで、救急搬送依頼を受けた時点で各科当番医に判断を委ねることなく、救急受け入れを行うことができ、救急要請担当医の負担の軽減のみならず、各科当番医の負担の軽減、救急看護に関しても受け入れの有無を把握しやすくなる

結果

・空床状況一覧を救急外来に提示する
・入院引き受けの順番を割当てておく方式を提案
・地域の関連病院に受入れの連携による患者のスムーズな受入れを提案